



自然観察

No. 80
2006
9月

目 次

・ 自然観察会の楽しみ	2
・ 第17回滝野の自然に親しむ集い実施報告 実施内容の反省	3
・ アンケートまとめ	4
・ 自然環境と廃棄物 第1回 ゴミ箱の功罪	5
・ 研修会写真	5
・ 研修報告 2006年度全道研修会報告	6
・ アルバム	7
・ フィールドニュース 平岡公園	8
・ 札幌市北区	9
・ 会計からのお願い	9
・ ウォッチングレポート	10
・ 参加者の声	13
・ 滝野参加者の声	14
・ ウォッチングプラン	15
・ 事務局だより	16
・ 理事会だより	16
緊急連絡先他	16



スコットランドにあるローマン・ウォールの残骸

はじめに

自然観察指導員に仲間入りしてから満5年になります。当会の観察会への参加は指導員講習会を受けてからでしたが、観察指導員として観察会のお手伝いや指導員研修会で学ぶなかで、指導員それぞれが観察会に対してもついろいろな思いや願い、参加者に伝えたいことをもち、楽しみながら観察会を実施しているように思います。

楽しみは行動のエネルギーの源でもあります。私の観察会に参加する楽しみを二つ、植物を知る楽しみに至るきっかけとともに記してみたいと思います。

1. 知る楽しみと知って(気付いて)もらう楽しみ

私は子どもの頃から野山を遊びの場として走り回り、自然と触れあうのが日常的で、自然は身近なものでした。

郡部の高校で教職についたばかりのころは、道端の植物や街路樹などの名は知っていても、その特徴や生活とのかかわりなどもあまり分からない状態でしたので、取りあえずその地域の植物について和名や学名、その名の由来や生活との関係、形態的・機能的な特徴、生態的な位置付けなどを一つずつわかるところから調べ始めました。

時に授業のなかに取り入れると、生徒には身近な植物をとりあげたことで親しみが生じ、興味付けにもなったように思います。

一番はじめに調べた植物はセイヨウタンポポ。二番目はフキでした。使った新牧野植物図鑑は初任給で買った初めての本でした。タンポポの名の由来や草あそびは柳田國男の「こども風土記」、英名の由来は「Oxford英語大辞典」などで調べた記憶があります。

タンポポの名には、つぼみの形が鼓に似て鼓のなる音に由来とする説やたんぽ槍形に由来するとする説があるが、英名のdandelionは葉の形がライオンの歯に似ていることに由来するという。

フキについての生活とのかかわりは「歳事記」や薬用植物についての本、葉でご飯を炊く記載のある松浦



武四郎の「石狩日誌」など、これらから得られた新しい発見や気付きは、調べるほどに興味が高まり、野外で見るこれらの植物にも新鮮な感覚での親しみと新たな見方、楽しさがありました。

生物の形態や生理的な機能、生態、他の生物や環境とのかかわりなど、知れば知るほど疑問が高まり、不思議さも倍増してきます。フクジュソウのパラボラ型の花が向日性で花の中心温度を高め、種子の結実率を高めたり、訪花昆虫の訪れを誘うこと。アリが種子を巣まで運び、ついている糖性の甘いエライオソームを食べ、種子は巣の外に出すということにより種子が散布されるしくみであること。



フクジュソウだけでなく、カタクリやエンレイソウ、ニリンソウ、カタバミなどもこのような種子散布を行うなど、種の存続をめぐるこれら植物の繁殖の戦略については知れば知るほど巧妙さ、不思議さに驚かされます。

花の色についても、発色のしくみや色の繁殖の戦略とのかかわりは興味深いことです。また、今、私たちは花の色を何色に分けて言い表わしているのでしょうか。

ワスレナグサの青い花の色は牧野日本植物図鑑では「るり色」、大井次三郎の野生植物図鑑では「淡青紫色、藍、淡紫色」と表現されていますが、上田敏は訳詩集「海潮音」のなかでウィルヘルム・アレントの詩「忘れな草」を次のように訳しています。

ながれのきしのひともとは
みそらのいろのみずあさぎ
なみ、ことごとく、くちづけし
はた、ことごとく、わすれゆく

この「みずあさぎ」色という表わしかたは、上田敏の色に対する繊細な感覚による微妙な色表現で、現在の私たちが失いつつある色についての日本人の文化の深さを知る思いでした。

観察会への参加者は、それぞれの思いがあって参加してきます。花の名前を知りたいだけという参加者にも、花の名やその花にまつわるさまざまな歴史や背景、不思議に気付いてもらうことにも楽しんでほしいと願っています。

2. こどもが自然に感動し、新しい気付きや発見をよるこぶ姿に出会う楽しみ

近年、子どもたちの野外での遊びの減少とと

もに自然とのふれあいも少なくなっています。子どもたちにはいろいろな機会に生の自然、森や川、海岸などで自然の営みやいのちの不思議に出会い、自然の厳しさなどに直接触れ、五感で感じながら自然に対する親しみと畏れを育ててほしいと願っています。

親子観察会や滝野の集いは、子どもたちには自然とのふれあいの絶好の場、感動の得られる場です。生き生きとした子どもの姿、成長していく子どもの姿にかかわれる楽しみは参加した指導員のだいご味でもあります。これからも多くの指導員とその楽しみを分かち合いたいと願っています。

第17回 滝野の自然に親しむ集い 実施報告

畑中 嘉輔

実施日 2006年7月29日(土)～30日(日)

参加者 一般38名(子供22名、大人16名、14家族中リピーター7家族)

指導員13名 計51名

実施内容の反省

受付

- ・子どもの名札には全員に読み仮名をふる。

入園式

- ・家族紹介のお願いを事前にしておいたほうがよい。
- ・家族紹介のパターンをはじめましてゲームに印刷しておく

せせらぎウォッチング

- ・スタッフが少ないので大変だった。
- ・川辺に運んでいく机(4個)が重たかった。
- ・前半は下流、後半は上流に分けて採集したのがよかった。
- ・草刈をしたがまだ草が多かった。

星空ウォッチング

- ・ブルーシートを滝野の予算で買ってはどうか。
- ・薄曇で星はよく見えなかったが人工衛星が見えたことや、根岸さんの星のお話で参加者は喜んでいた。

ナイトハイク

- ・出発の時からおしゃべりが多いのが気になった。事前の説明で徹底する。
- ・5分間の沈黙時間は集中してできた。
- ・ホテルが見えたのが感動的だった。

炊事(ポークカレー作り)

- ・昨年より上手にいった。
- ・薪割りがあぶなっかしい。学年を限定するなど、

安全管理を考えていく。

- ・学園の職員の薪割り指導に一考を要する。

虫取り(フリータイム)

- ・草刈をしたため虫が少なかった。次年度も草刈をしないようにお願いしていく。

懇親会

- ・指導員も一般参加者の中に入って親睦を深めるべきだ。

朝のつどい

- ・ラジオ体操はテープを用意して、ラジカセを持ってくる。(学園のは使えない)
- ・朝の散歩は自由散歩として7:20には指導員は朝食の準備にかかる。

- ・清掃は終わったら班毎に点検を受けること。

- ・朝食はパン2個で十分。

自然観察ハイキング

- ・距離が短くなってよかった。
- ・写真撮影係は一番先頭の班になるとよい。
- ・2回目のハイキングコース下見にはフィールドビンゴの案を持って入ったのがよかった。

次年度の2日目の日程について

- ・退園時間は午前10時になるので、学園を9時過ぎに出発して、自然観察ハイキングを行い、すずらん公園で解散とする方向で計画する。
- ・2日目の弁当は注文しない。

『第17回滝野の自然に親しむ集い』アンケートまとめ』

【子ども用】 回答22 / 22参加

1. いちばんおもしろかったのは？

・せせらぎウォッチング	10	・キャンプファイアー	10
・カレーライス作り	5	・ナイトハイク	1
・星空ウォッチング	1	・フィールドビンゴ	1

2. 発見したことやおどろいたことは何ですか？

・ホタルを見た	4
・ニジマスなど魚を獲った	4
・バッタがたくさんとれた	3
・川であそんだ	1
・川の場所によって獲れる魚の種類が違う	1
・カレーライスが作れた	1
・カエルがでてきた	1
・おたまじゃくしを見た	1
・キャンプファイアーの火が勢い良く燃えた	1
・赤い翅のトンボがいた	1
・森ではっぱをいっぱい見つけた	1
・まきわりが楽しかった	1
・ギンヤンマを見た	1

3. 何かこまったことはありませんでしたか？

・雲がかかって星があまり見えなかった	1
・川で服がぬれた	1
・時間通り動かなければいけないこと	1
・トイレのスリッパが大きいのが少なかった	1
・なかった	17

4. わからなかったことは何ですか？

・名前（友達？ 虫？）	1
・なかった。	20

5. 何かいやなことがありましたか、それはどんなこと？

・キャンプファイアーの時、蚊がきた	1
・寝る時チョウ（セセリチョウ）が飛んでいた	1
・はじめましてゲームで無理やり言われた	1
・キャンプファイアーの点火役になれなかった	1
・なかった	17

6. らいねんもさんかしたいですか？

・ぜひ参加したい	14	・できたら参加したい	7
・参加したくない	0		



【おとな用】 回答16 / 16参加

1. 滝野の集いをどこで知りましたか

・新聞紙上で(道新)	1	・ダ'ル外メール	3
・PRチラシ	4	・年間予定表	5
・ウォッチングガイド	3	・TGAL	2

2. 今まで自然観察会などの行事に参加したことは？

・ある	11	・ない	5
-----	----	-----	---

3. 2であると答えた方は、どのような行事ですか

・滝野の集い	5	・自然観察会	3
・川の観察会	3	・探鳥会	2
・NOCの観察会	1		

4. 滝野の集いで発見したことや驚いたことは何？

・ホタルをはじめて見た	7
・星空を寝転がって見た	2
・川に水生昆虫がいる	2
・カレーライスの後始末の方法	1
・ナイトハイクで周りが以前よりも明るくなっていた	1
・森の散歩でリフレッシュできた	1
・大きなニジマスがとれた	1
・木星を見た	1

5. 滝野の集いで、一番子どもに良いと感じたことは？

・自然とのふれ合い	4
・初対面の人と関わり合う	3
・知らない人との集団生活	2
・年齢の違う子と遊ぶ	2
・少し野性的になった	2
・自然について自分で感じとり指導員の方に学べる	1
・森の中や野外での食事がとてもよい	1

6. 宿泊設備についての感想は？

・子どもを思い出す木造校舎はよい	3
・快適	4
・思っていたよりきれい	1
・トイレにハエもおらず、すごい	1
・あまり経験できない施設でそれなりによい	1
・虫がたくさんいて少しづらかった	1
・いい感じだが朝食が多かった	1
・朝食に野菜がほしい	1
・札幌にこんな場所があったかとびっくりした	1

7. その他、なんでもけっこうですから、参加した感想を記入なし

第1回 ゴミ箱の功罪

NPO 法人 北のごみ総合研究所

代表理事 神山 桂一

以前、どこかの山の登り口に立看板があった。そこには「取っていいのは写真だけ。残していいのは足跡だけ」と記してあった。難しい理屈よりもよほどこの方が判り易い。美しい自然の中に汚いごみを放置したり、高山植物を盗掘したり、やっと生きのびている野生動物を住みにくくするような行為を慎もうという訴えである。

最近では山に登っても、人々が生理的な用を足すのに随分気をつけねばならなくなった。汚物で山を汚すだけでなく、普通のポケットティッシュをそこに残せば、あたかも万年雪のように紙くずが何年残ってしまう。さらに登山客が多くなると、彼らの踏み跡が植物の成育を妨げる恐れも出てきた。こうなると撮ってよいといわれた写真を撮るのにも気をつけねばならなくなった。

こうした状態になった原因はどう考えてみても人間が増え過ぎて、自然環境に多くの負荷をかけるようになったからと言える。そのことは山の中だけではない。海岸でも、町なかの公共の場所の「ゴミ箱」の設置の可否の問題にも表れてきた。

これまでは「ごみのポイ捨て防止」を呼びかけると共に、環境美化に役立つ「ゴミ箱」は公衆への配慮として不可欠だと考えられてきた。そのために街路にも公園にも予算の許す限りでたくさんの「ゴミ箱」を配置することになった。そうしないとかえって後始末や掃除をする人の手間を余分にかけることになるからである。

しかし、現在はこの考え方が否定されるようになってきた。山に登る時と同じように、街を歩く時も自分のごみは自分で持ち帰るべきだとの考えである。これはごみを出した人がその後始末をする責任を負うべきだという考えからである。

この考えは普通のごみに限らず、あらゆる廃棄物に適用されている。

「PPPの原則」という言葉がある。最後のPは原則の略字であるから「の原則」は蛇足だが。この言葉は環境を汚したり、或いは汚す恐れのある行為をする人はその行為の代償を払うべきだ、という考えでこれは1970年代後半から世界的に認められた。日本ではそうした意識はもっと前からあったのではなかろうか。

こうなってくると、そもそも後始末に困るごみは出さない方がいいことになる。他人まかせにしないで自分で始末しなければ社会では暮らせなくなる。これまではごみの始末を市町村にまかせてきたが、実はその廃棄物処理に莫大な費用が使われている。

これでいいのだろうか。また、ごみをたくさん出すことは、同時にそのことは地球上のいろいろな資源をどんどん消費して、それをごみにしていることであり、生き物の命を犯していることでもある。

これではいけない。ごみを出すことに我々はもっと注意を向けなければいけない。ごみを捨てないですむような生活をやらねばならないのではないか、という反省が「ゴミ箱」を公共の場所に置くべきかどうかの問題から見えてきた。

長年、廃棄物の問題に関わってきて、その中には私たちの心がけに関連する課題もあるが、自然環境と関係のある幾つかの問題について皆様にも考えて頂きたいことがある。そうしたテーマについて、この後も3~4回、下手な文章を書かせて頂くつもりである。おつき合いいただければ幸いです。



全道研修会 フィールド



全道研修会 講義

2006年度全道研修会報告

テ ー マ： NACS-J海岸植物調査研修会
 あなたの身近な海岸を調査してみませんか
 実 施 日： 2006年6月24日（土）13:00～ 25日（日）12:30
 場 所： 石狩温泉「番屋の湯」研修室、石狩浜
 講 師： NACS-J研修会 由良 浩さん（千葉県立中央博物館）
 NACS-J研修会 開発 法子さん（NACS-J）
 石狩浜研修会 内藤 華子さん（石狩浜海浜植物保護センター）
 参加人数： 38名

日本の自然はどこでも破壊のベクトルで進み、私たちの心を痛めています。他に比べても厳しい海岸という自然環境は、開発行為やレジャー行為によって急速に破壊され、そこに成育する植物群落とそれにつながる動物相は危機に瀕しています。

（財）日本自然保護協会は、海岸の自然環境保全のための基礎データとなる海岸植物群落の調査を3年前から行っています。今回の全道研修会は北海道における「海岸植物群落の調査」をメインとしてNACS-Jとの共催で石狩浜で実施しました。

会場の提供と講習内容等に石狩浜海浜植物保護センターの全面的協力をいただきました。

（ 後藤 言行）

（概要）

1日目、石狩浜海浜植物保護センターで、同センター内の展示と見本園を観察した後、バスを利用して、石狩浜の3箇所を観察して周るフィールドワークに出発した。

はまなすの丘公園

約100年の間に成立した砂嘴（さし）上に設けられた海浜植物の公園で、保護区が設定され、木道が通っている。参加者は、ビジターセンター展望台から地形の成立について内藤講師の説明を受けた後、公園内を散策しながら、ハマナス、アキグミ、ハマエンドウなどの花をはじめ、コウボウムギ、ハマニンニク、ハマニガナ等砂を固定する地下茎や根を持った海浜植物を観察した。

海岸砂丘

研修場所となった石狩浜では、海岸線に平行な三つの砂丘が観察できるが、海浜に近い所では、バギーカーが乗り入れて縦横にドライブしていくために植物が剥ぎ取られ、砂地が露出している。深くえぐれた部分を観察した参加者から、驚きの声が聞かれた。この裸地の緑を回復させるため、現在ロープ柵で進入を禁止する措置がとられている。

海岸カシワ林

石狩から小樽市大浜にかけて広がるカシワの天然林を海側から内陸へと横切る道路を歩き、両側に広がる植生の変化を観察するコースで、樹木では、カシワ優占部分からイタヤ、ヤナギ類、自然観察 80号 （ 6）

アズキナシ等が混じる内陸側へと変化していき、草本も砂地に適した海浜植物から、内陸の草地や湿地で見られるものへと変わっていくのが見て取れる。自然観察の巧者である参加者は、葉を触り、匂いをかぎ、ルーペを使ってよく似た植物の相違点を追及しながら、互いに交流を深めていた。時折、ヒバリ、ノビタキ、ホオアカなどの野鳥が現れて、参加者の目を惹きつけた。夕食後、2人の講師によるレクチャーが行われた。

内藤講師 - 石狩浜の海浜植物と保護活動

豊富な写真資料を駆使して、当日観察した浜の植生の実態と保護の現状を短時間で概観するものだった。

開発講師 - 海岸植物群落調査の目的、概要、計画 今回の全道研修の主要な講習である NACS-J の調査に関わるもので、このような大規模な調査がこれまでになされてこなかった原因は、海岸が数多くの法律によって管理されているために所管省庁、自治体が多岐にわたるためである点と、今年で3年目の最終年を迎えるこの調査は各地に指導員が存在する NACS-J ならではの全国規模のものであるという点を講師は指摘された。

2日目、海浜植物保護センターに場所を移して、由良講師の「海岸植物群落の特徴～海岸、特に砂浜の環境と海岸植物群落の関係」というレクチャ

ーからスタートした。

海岸は海でも陸でもない、独自の環境で独自の生物が生息すること、砂浜には、潮風（ソルト・スプレー）及び砂の移動と吹き付けという独特の厳しさがあり、それに対応した植生があり、各地の浜には地形に応じた海浜植物群落が見られることなど説明された。

その後、聞いたことを実地に確かめる活動を、保護センター近くの砂地と周辺の砂丘で行い、汀線からの距離と地下水の塩分を舌で確かめたり、植物の根や地下茎の伸び広がり方を丁寧に掘って確認した。

保護センターにもどってから、開発講師から配られた北海道の海浜地図を見ながら、どの浜を担当するか挙手によって分担したが、海浜の数が500を超えること、調査報告の締め切り日が9月30日であることから、全部を網羅することが困難であることが明らかになった。この点に関しては、閉会式でも話題となり、後藤会長から、急いで全道に調査に参加するよう呼びかけてみるとの話がされた。

最後に石狩浜植物保護センターと講師の方々に感謝の拍手を送って、二日間の研修に幕を閉じた。
（石狩市 林 迪子記）

ア ル バ ム



7/29 滝野 これから始まり



7/29 滝野 ミニ水族館



7/29 滝野 フリ - タイムに虫取り



7/30 滝野 楽しい思い出を胸に



7/16 精進川 魚ちゃん出てきて



8/20 手稲山 ヤナギランの海原

私の観察地紹介 『平岡公園』

今回は、佐藤佑一さんに編集部からの質問に答えていただく形で話を聞きました。

Q 札幌市民には梅林として有名ですが、湿地、林、小川、人工池、原っぱ等があり、一昔前の自然が残っていますね。

A そうなんですよ。ですから協議会の観察会だけでなく、親子参加の川遊びや樹木だけを見るツリーウォッチングやアオサギ観察会などを行っています。その他に公園管理事務所主催の観察会もあります。



Q 沢山の観察会があるということはより細かく観察しているということですね。

A 週に1~2回は公園内を回っていますね。例えば親子の川遊びで魚の生息調査をしますが、それには前日に網を仕掛けに行き、当日に網を上げて皆で調べます。皆さんも観察会の下見は1回だけでなく数回やっていらっしゃる方が多いのではないですか。

Q 佐藤さんの観察会は下見が当日の9時からで観察会は10時半からです。その下見に参加したときに「さあ、今日はどのコースにするかな。」とうれしそうに言ったのが心に残っています。

A まあ、一番いい季節ですから湿地の花々、樹木の花など重点にしたいところが沢山あります。観てもらいたいものを一つ二つに絞り、後は終了時間を守るようコースを選びます。

Q 長年にわたって細かく観察していないと湿地のエゾノリュウキンカの話は出来ないなと思いました。

A あのエゾノリュウキンカはどこからか持ってきて植えたものなのです。2、3年は沢山の花が見られたのですが、その後段々少なくなり、あれ、消えちゃったのかなと思っていると翌年に少し見られ、次の年はさらに増えて花も多く咲くようになりました。植物も人間と同じように引越しをしてその土地になじむまでに時間をかけて順応してから勢力を広げ

ていくのだと、改めて生命力に驚きました。

Q 人工湿地は住民と公園側の話し合いで生まれたそうですね。

A あそこに遊具を設置するという話だったので、それなら湿地を作って欲しいと要望しました。

かつて石狩平野にあった中層湿原を目指しているのですが、思いもかけないことが次々と出てきています。ミシシippアカミカメやクサガメが持ち込まれたり、ヤナギトラノオが大繁殖したりと人が手を加えて調整をしていかなければならない作業が沢山あります。私は仲間たちと公園ボランティアとして参加しています。

Q 魚とりやオタマジャクシ、バッタ、トンボ、セミと子供のころ遊びまわった環境がここにはありますね。

A そうなんですよ。私の子供のころと同じような体験を子供たちやその親にもしてもらいたいと思っています。親の年代は三面張りの川になったり、汚く、危ないから遊んではいけないなどいろいろ規制があったころですから子供たちと一緒に遊んでもらっています。

Q 原っぱがどのように変化するのか経過を見ているところもあるそうですね。

A 現在はヤナギやシラカバなどが2メートル以上に成長しています。まだ針葉樹は入っていないですね。原っぱのままにしてあるところもありますので比較ができます。ここで遊んだ子供たちが親となって次の世代に伝えて欲しいですね。



この他にもカエルを食べようになったカラスのことなど興味深い話をたくさん聞くことができました。見所いっぱいの平岡公園へ皆さんも行ってみませんか。

(横山 加奈子 記)

夏休みの楽しみ

札幌市北区 三崎 篤
夏休みを心待ちにしている一人の老人がおります。それは、私です。子供たちと一緒に跳んだり跳ねたりキャッチボールをするわけではありません。

それは、NHK のラジオ番組「夏休み子供科学電話相談」を聴くことです。

7月下旬から毎日午前9時から3時間ほどで、子供たちの発する、動物、植物、天文、その他自然科学等に関する疑問質問に、その道の先生方が答える番組です。

子供たちの問いかけに、先生方がやさしい言葉を選んで答えるのに非常に好感が持てますし、子供たちはよく観察し的確な質問を発していることに感心させられます。そして私自身、気づかなかったこと、疑問すら抱いていない基本的なことを教えられます。

自由研究の手がかりを得ようとする子供たちに

対して、実に的確な助言に、ほっとさせられます。可愛いわが子をラジオに出させようと電話口でネジを巻いている親の姿が見えたり、子供に托した親の質問ににやにやしたりとさまざまで親子共々楽しく大いにためになる番組と思っています。

かつては、学校の授業から開放され、近くの公園・グラウンドを走り回り、ゲームに興じ、川遊び、森の探検、虫や魚をとるため網を手にした子供たちの姿が見られました。子供たちの歓声が満ち満ちて、それによって夏休みの到来を感じたものです。

すべての知識は目撃からとは、スイスの教育者ペスタロッチの言葉だったでしょうか、子供たちを家やお仕着せのゲーム機から解放し自然とふれあい、目撃し疑問を覚える感性を育てることは大切なことです。地球に生きるひとつの生き物として、ほかの動植物や環境に目を向けて欲しい。私の推奨番組です。

只今、高校野球中継のため中断していますが、終わり次第再開します。念のため。

会計からのお願い

会費の「自動払い込み」について
アンケートにお答えください

現在、年会費の納入を、会員が郵便局の窓口で振込む様式をとっています。しかし、入金日が広い期間に分散し、確認業務が繁雑になっています。業務の軽減化をはかるために、納入方法を郵便局の「自動払い込み」にすることを検討しています。

「自動払い込み」とは、会費を会員の郵便貯金口座から自動的に会の振替口座に払い込まれるようにする方法です。入金連絡も一覧表で受けることが出来ます。また、会員の皆さんにおいてもうっかり忘れや郵便局での手間を省くことが出来ます。

「自動払い込み」は、ある程度まとまった数が必要です。

協力いただけるかどうか同封のアンケートに記入の上10月7日までにご提出ください。

会費の納入はお早めに

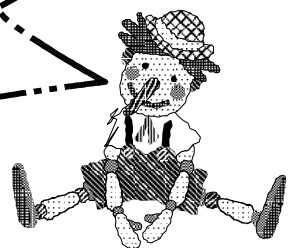
会費は年度単位です。2006年度の会費をお早めにお願ひいたします。

- ・ 通信欄は住所変更等の近況報告にお使い下さい。
- ・ 差し支えなければメールアドレスを記入願ひます。

退会のお申し出があるまでは北海道自然観察協議会の会員です。

届が出されるまで会費のお支払いをしていただきます。

郵便振替口座 02710-1-8768 北海道自然観察協議会
会計 畑中 嘉輔



ウォッチングレポート

小樽市 旭展望台 ．'06年 4月29日 ．

参加者27名 指導員 6名 曇 道新

<早春の花>

下見は4月26日に実施し3名が参加。冬の記録的な降雪と春先の寒さのゆり戻しのため、現地はまだ40cm以上の積雪があったのでコースを変更する。

立ち木の周囲の雪が解けて地面がのぞいている部分に、ようやく芽を出したカタクリの固い蕾がいくつか観察された。早春の観察会の日程を決めるのは難しい。去年も雪融けが遅く、花が開くのには間があったし、4年ほど前は2週間近く春が早く来て、カタクリはみな散り終えた後だった。

でもその時々に見られる自然は参加者の感動を呼ぶのに充分で、雪の上に落ちているツルアジサイの枯れ花や、道端の芽吹きなども熱心に観察していた。
(大嶋 正紀 記)

岩見沢市 利根別自然休養林 ．'06年 5月7日 ．

参加者10名 指導員 5名 快晴 朝日、読売、毎日、他

<春の野鳥と植物観察>

まず天気が良かったこと、鳥がたくさん出た事は観察会としては良い条件でした。

エゾエンゴサク、フクジュソウは満開状態、ニリンソウはほとんどツボミ状態。キタコブシはやっと白い花をつけ始めている所を、スコープに入れて見てもらいました。

木のツボミやヤドリギなどもスコープで見てもいい、肉眼や双眼鏡とは違う見え方に感動してもらえたので、スコープを担いで行って良かったです。

フクロウ、オシドリは始めて見た人もいて、感動してくれたのを見て嬉しかったです。

鳥はなかなか全員に見せられないのは仕方の無いところですが、図鑑で補足しました。

(佐藤 幸典 記)

白老町 ポロト湖畔 ．'06年 5月14日 ．

参加者 名 指導員 名

<春の息吹を感じよう>

前夜から強い雨が降り当日も朝から小雨交じりで参加者が来るか心配していたが、札幌からの参加者もありホッとする。

エゾエンゴサクやアズマイチゲ、そしてメインのミズバショウも咲き誇っていたが天候不順のせいか元気がない感じだった。しかし年々植生場所も増えてきたようだ。小鳥たちも相手を探すために忙しくさえずりながら飛び回っていた。

鈴木指導員が秘密にしているエゾモモンガの巣作り場所へごほうびとして案内してくれ、参加者一同感激し楽しい観察会であった。

(新岡 幸一 記)

自然観察 80号 (10)

札幌市豊平区 森林総研 ．'06年 6月 3日 ．

参加者16名 指導員 4名 晴 読売

<初夏の森林総研を散策しよう>

この時期の森林総研林道は、ユリ科の植物（ヒメズイ、マイズルソウ、ハウチャクソウ、ミヤマナルコユリ等）が見事です。

林内には、クルマバソウ、オククルマムグラが敷き詰められて、所々にギンラン、サイハイラン、トケンランなどのラン科の花が参加者の目を引きまします。

下見では気づかなかったのですが、ヤマシャクヤク、ノビネチドリが見つかりました。参加者の多くの目で見て歩くと、新しい発見があるものだなあと、毎年感じています。

今回の散策コースを地図上にコンパスを当てて測ると、およそ、3.6キロメートルでした。2時間では少しきついような気がしました。

(畑中 嘉輔 記)

苫小牧市 ウトナイ湖周辺 ．'06年 6月4日 ．

参加者25名 指導員 3名 薄曇 道新、朝日、市広報・民報

<湖畔林から草原、湖畔へのお散歩>

当日はうす曇で風はなく、15 ぐらいでちょうどよい天気でした。

参加者は札幌や苫小牧などから25名。指導員は3名でしたので、2班に分けました。私のほうには小2の一人が入りました。その小学生は虫が大好きで、テレビのコマーシャルのように、15分に一回ぐらい虫を見つけては話題になりました。エゾアカヤマアリに始まり、カメムシ、アワフキムシ、サナエトンボ、テンマクケムシ、クモの子の群れなどと。

林、草原、湖畔への片道2.5kmで観察できた主な花は、たくさんのチョウセンゴミシ、ベニバナイチヤクソウ。エゾノコリンゴやエゾヤマザクラはところどころに、スズランはすこし、コナラの芽吹きとミズナラの雄花と雌花も観察しました。

野鳥はアオジ、センダイムシクイ、ノビタキやノゴマ、キビタキの声、カッコウが遠くや近くで鳴き、姿も見ました。ついに頭上10mぐらいのところを飛んでいきました。事故もなく、皆さんが満足して帰っていったように思います。

(谷口 勇五郎 記)

苫小牧市 錦大沼総合公園 ．'06年 6月4日 ．

参加者16名 指導員 5名 晴 道新、朝日、苫民報、NHK

<小さな湿原の花>

晴れ。「小さな湿原の花」をテーマにゆっくり、のんびりとスタート。本日は意外と参加者が少ない。2グループに分けて、ジックリ散策。

湿原ではミツガシワの花が見頃。薄いピンクの

花は、真綿のような白い毛に覆われ咲き乱れていた。一同、ルーベを通して観察。始めて見る方が多く、感動。

参加者から一日を通しての感想として、

ゆっくり、じっくり観察、散策でき良かった。

時間帯も長く、特に昼食を取りながらの雑談が楽しく、情報交換が出来て、有意義。などの発言を頂いた。

天気もよく、事故も無く、快適な一日であった。

(佐々木 昌治 記)

札幌市北区 屯田防風林 ．'Q6年 6月4日．

参加者 9名 指導員 5名 晴 広報

<防風林の歴史と効用>

今年もテーマは、「屯田防風林の歴史を考えながら、防風林を散策する。」で昨年に続き、重点的には樹木3種（ヤマグワ、ライラック、エゾニワトコ）、草花（エゾタンポポ、クルマバソウ、オドリコソウ）と、カラ、ムクドリ類の観察を想定した。結果、エゾニワトコの散房花序の小白花、ライラックの紫や白の狭円錐花序の小花が目立ったが、ヤマグワの花は不鮮明。草花ではオドリコソウの白花が盛りを少し越え、クルマバソウの白花は来た時期が早い。昨年群生していた場所のエゾタンポポが、今年は点在し、方々に散在したり、セイヨウタンポポに抑えられずみ。

鳥が多く観察できるだろうと時間を早めた観察会だったが、交通の便などで、やはり難しい。今回は従来通り、10時開始が適当でしょう。

(澤田 八郎 記)

ニセコ町 半月湖 ．'Q6年 6月10日．

参加者 3名 指導員 5名 雨

<半月湖の周回路を巡り 春植物を観察しよう>

下見は後志・小樽地区の指導員ミニ研修会を兼ねて、6月8・9日の両日にわたって行った。参加者9名で半月湖の他に、鏡沼や神仙沼で実施し、大いに研修した。

当日は「暴風雨警報」が発令される中で、参加者があるかと危ぶまれたが、小樽市より3名の参加があった。運よく午前中はさほど激しい降りにもならず、少ない参加者に懇切丁寧な説明が出来、また「雨の日ならでは」の観察も出来て、参加者にとっては好評であった。

(金丸 忍 記)

石狩市 ハマナスの丘公園 ．'Q6年 6月10日．

参加者 3名 指導員 7名 曇/雨 読売

<ハマナス咲く初夏の石狩浜を散策しよう>

雨天のため参加者は指導員も含めて21名（石狩市との共催のため11名は石狩市への申し込み）。まずビジターセンターの展望台から観察会場となる浜の全景を眺め、遠方の山々、左右の岬、近くの砂丘の名称や成り立ちを説明しました。

次に木道に沿って開花しているハマハタザオ、ハマエンドウ、ハマナス、オオヤマフスマ、アキグミ、キンギンボク、エゾスカシユリ、クゲヌマラン、ヒメイズイを観察しました。

ヒバリの絶え間ないさえずりが聞こえ、ノビタキ、ホオアカが次々に姿を見せ、ノゴマが正面を向いて赤いのどをふくらませながら、かなりの時間鳴きたててくれたので参加者から歓声が上がりました。

(林 迪子 記)

札幌市清田区 平岡公園 ．'Q6年 6月11日．

参加者18名 指導員 7名 晴

<はらっぱに作った湿原の変わる様子を観察する>

一週間ほど梅雨のような雨の後良く晴れてくれました。さわやかな観察日和に感謝...

総勢25名、出発してすぐ「梅の香橋」（木橋）から樹木の樹冠近くを観察できます。遠望にイヌエンジュの芽吹きが美しい。

自然湿地の木道からは衰退していたエゾノリュウキンカが昨年の2倍以上に盛り返してきました。一方衰退がとまらないクリンソウは5本ほどが懸命に咲いています。人工湿地ではサギスゲが隆盛を誇り、同数株でスタートしたワタスゲは30本程度で風前の灯です。

昼食後は丘陵に移動して七分咲きのヤマシャクヤクを見て、最後はホオノキの花に鼻をつっこみ匂いにうっとり...斜面を登り終花からかたいつばみまで揃ったホオノキを、上から眺め皆でウツトリ...

皆笑顔で解散しました。来月も来年も第2日曜日です。

(佐藤 佑一 記)

札幌市豊平区 精進川河畔 ．'06年 7月16日．

参加者12名 指導員 6名 曇 読売、せせらぎ

<川で遊ぼう>

精進川での観察会が3年ぶりであって、地元のミニコミ誌に掲載してもらい、4才～9才の子供を含む12名の参加者でスタートしました。

初めに公園内での「しぜんかんさつクイズ」に挑戦し、木の実（クワ、サクラ）を食べ比べ、モミジの実、サクラの葉のコブ、など...子供達を不思議の世界へと導き、学んでもらった後、場所を移して川の中に入ってもらいました。

最初は服がぬれるのを嫌っていた子供達も、慣れるにしたがって、はしゃぎながらずぶ濡れになって網で昆虫や魚をすくっていました。

採った昆虫、魚、それ以外の生き物を水槽や顕微鏡で観察した後川へ返してあげました。

以前より、公園内のゴミ、川の水の汚れが増している事が気掛かりでした。

(澤田 久美子 記)

札幌市中央区 藻岩山 ．'06年 6月18日 ．

参加者15名 指導員 3名 晴

<もっと藻岩山>

今年もメインは"エゾノタチツボスミレ"と思いきや、尾根筋を中心に、オダマキ（園芸種？）が何ヶ所も出現。何故にオダマキ？とひとしきり盛り上がりました。

それにしても、円山のホタルブクロといい、藻岩のオダマキといい、出自の分からない植物や、帰化種の進出はやっぱりオーバーユースのせいなのか…。この分では、天然記念物返上もそう遠くはないような気もしてきます。（山形 誠一 記）

札幌市清田区 平岡公園 ．'06年 7月 9日 ．

参加者17名 指導員 2名 晴 読売

<はらっぱに造った湿原の変わる様子を観察する>

スタート直後、脱皮して羽根を乾燥中のオニヤンマを見つけ、皆でゆっくり観察しました。遅れていた羽化が1週間ほど前からやっと始まったところで、この後も羽化中も含め8匹見られラッキーでした。オニヤンマの羽化は8月初めまで続きます。

人口湿地では、ネムロコウホネ、モウセンゴケ、サギスゲ、コバノギボウシ、クロアブラガヤ、フトイ、エゾミソハギなど、今年は湿地の水位が高く、モウセンゴケに影響が有りそうで心配です。

その他にはキショウブ、ノハナショウブ、ギンリョウソウ、アクシバ、ナツハゼといったところですが、本日のメインはサルナシの雄花と両性化をしっかりと観察していただくことで、2本並んでいる場所へ案内しました。

一般参加者17名に案内人2名は、ちょっとさみしいです。「平岡ドングリの森」の中田真澄さんにお手伝いいただきました。（佐藤 佑一 記）

小樽市 オタモイ海岸 ．'06年 7月23日 ．

参加者21名 指導員 6名 晴

<海浜植物>

7月21日(金)に5名で下見をしたが、落石のためバシクルモンの咲く、龍宮閣跡へは立ち入り禁止で残念でした。当日は海岸への七曲りの両側にある植物を中心に、ゆっくりと観察しながら森林浴と潮の涼風を味わい、オタモイの景観を楽しみました。

オオウバユリやエゾニュウ、エゾニワトコ、ノリウツギ、が満開で迎えてくれ、クジャクシダの涼しげな姿。コタニワタリを足元に、見上げるとオニグルミやミヤマハンノキ。ヤマブドウの実もたわわで、秋が楽しみです。

帰路にはクルマユリやエゾアジサイが優しく見送ってくれました。新たに参加された方々も増え、季節の草花との出会いを楽しみ、無事に終了できました。（本間 正一 記）

自然観察 80号 （ 12 ）

札幌市中央区 円山公園 ．'06年 7月23日 ．

参加者14名 指導員 3名 曇

<円山登山>

円山は今では天然記念物というより、すっかり都市公園として認知されてしまったようだ。気軽な散歩コースの延長か、犬を連れた人と何人もすれ違う。

犬を連れて登るなどとは言えないけれど、帰化種の侵入の何割かは犬に付いて来た種が原因だろう。一方で在来種を守るために外来種を抜いたりしている。

なんか変だと思わないのだろうか？

さて今年は、忙しくて下見をパスしてしまったため、話題が少なく、参加者の皆さんにずいぶん助けられた。気づかず通り過ぎた花を見つけていただいたり、フクロウが円山に来ていたときの写真を見せていただいたり…

多謝。（山形 誠一 記）

北見市 たんのかたくりの森 ．'06年 8月 6日 ．

参加者 5名 指導員 5名 晴 経済の伝書鳩

<2種類のツリフネソウ>

集合場所である図書館を借り、保護しているカタクリの森について概略を説明、時期的に活動を活発化しているスズメバチとその対応について観察会カード使って注意を促した。

自然相手のことで、テーマのツリフネソウは開花前の観察会となった。森の入口で、ヤマグワの味見からスタート。

普段一般の人の立ち入りをしないようにしている関係もあり、通路上や通路脇には多くの植物が認められる。これらカタクリ以外の植物を含めての自然体系であり、全体を守っていくことがカタクリを守ることに繋がることを、少しは理解してもらえたかと思う。

カタクリの時期以外では初めての観察会で、たんのかたくりと森の会との共催で行った。

花 ナンバンハコベ、ミヤマヤブタバコ、エゾヤマハギ、ウド、ミヤマニガウリ、ヤブハギ、ウツボグサ、エゾノヨロイグサ、イワアカバナ、ホタルサイコ、イケマ、オトギリソウほか。

実 ヤチダモ、オオハナウド、チョウセンゴミシ、ナニワズ、コウライテンナンショウ、クリンソウほか。（竹林 正昭 記）



ホタルサイコ



オオヤマサギソウ



石狩市厚田区 濃昼山道 (06/5/20)

札幌市北区 桜井 洋子

自治体の合併で石狩市になった旧厚田村の濃昼山道を初めて歩いてきました。山道歩きなので景色やいにしえの人々がどんな所を歩いていたのかに興味をひかれたのですが、一歩足を踏み入れてびっくりしました。

足元が花・花・花と踏まずに歩くのがむずかしい位の種類と数の多さです。キクザキイチゲ・ニリンソウ・ミヤマスミレ・オオサクラソウ等々そしてミドリニリンソウも。特にオクエゾサイシンの多さには他の山道とは違う様に感じました。

自然観察指導員の方がオクエゾサイシンの葉の裏にヒメギフチョウの卵を発見して説明してくれた事には感動しました。

この観察会を企画・催行してくださいました自然観察指導員の皆様に心より感謝申し上げます。

そしてこれからの御活躍を期待しています。

苫小牧市 ウツナイ湖周辺 (06/6/4)

苫小牧市旭町 梅津 治夫

定刻、植苗駅前にて挨拶の後2班に分かれて、早速駅前の草むらから植物を中心に自然観察を始める。

カンボク、ハリギリ、ハンゴンソウ、更にミヤマザクラやチョウセンゴミシ等の可憐な花も見られた。林道の道に入ると先ず、ヤマウルシに注意とのこと。周囲にはマイヅルソウ、オオアマドコロ、スズラン等も見られ、なかなか前に進めない。

小学生の男児もいて、彼は眼が良く、我々が気付かないのも素早く見つけて質問をしてくれる。クモ類、カメムシ類、カタビロオサムシも彼が見つけた。

更に行くと道路際にベニバナイチヤクソウが点々と咲いており皆歓声をあげていた。やがて草原に出るとコヨシキリやノビタキが出迎えてくれ、美々川河口での昼食時にはセンダイムシクイがさえずり、更には離れた所で鳴いていたカッコウが我々の頭上を飛び去り、皆大感激。

最後に丁寧な講師の先生方に感謝いたします。

札幌市北区 五ノ戸の森緑地 (06/5/21)

札幌市中央区 井上 礼子

こちらの観察会に参加させて頂くのは、これで二度目です。

市役所で目にした環境講座カレンダーを見て、初めて道庁・植物園自然観察会に参加させていただいた際、ガイドの方がお二人も付いて下さったのが嬉しく、楽しい一時となりました。

五ノ戸の森観察会でもお二人のガイドの方が要所所で足を止めては生き生きと、自然の歴史や木々の名前、草花の名や特徴等を話してくださいました。お天気に誘われて野鳥や蝶も姿を見せたかと思うと川にはオタマジャクシやアメンボウ、ザリガニなどがいて、ふと子供時代の記憶が呼び覚まされたことでした。

笑顔で熱心に説明して下さったガイドの方、そしてコンパクトな冊子を作ってくれた方、楽しい、想い出に残る一時をありがとうございました。

又、観察会に参加させていただきたいと思います。その節はどうぞよろしくお願いいたします。

札幌市豊平区 精進川河畔 (06/7/16)

札幌市北区 田井 由紀恵・摩優

今回の川遊びは昨年真駒内川に続いて、2回目の体験でした。思ったよりたくさんの生き物がいてうれしい反面、ゴミも多く、少し白く濁っていたので、次回は簿ゴミ袋持参で参加しようと思いました。
(由紀恵 記)

くきのながいタンポポをみたときすごくびっくりしました。こんなたんぽぽがあるんだなと思いました。このたんぽぽに名前をつけて下さいといわれて、「くびながたんぽぽ」とつけました。

つぎはクワのみとさくらのみどちらがおいしいか自ぶんたちで決めました。クワのみはあまくておいしかったです、さくらのみは体によいけれど、すこしにがかったです。

つぎはやっと川にはいることができました。つぎつぎに魚をとっていく人たちがおおくなってき、ここは川があさいからふかいところまでいきました。するとどじょうをつかまえました。さいごに魚がとれてよかったです。
(摩優 記)

毎年、春のカタクリ、夏のおタモイを楽しみに参加しています。草花が大好きで、今回もバシクルモン（オショロソウ）を楽しみにしていましたが、落石のため近寄れず残念でした。

でも、ノリウツギの白い花が満開でエゾニワトコの赤い実と並んできれいでした。海の色は青く澄んで積丹のローソク岩も見え、絵の様に美しい海岸です。

子育てに涙ぐましい犠牲的献身で愛情を注ぐカバキコマチグモや、彩りあざやかな白いウブ毛に包まれたオオミズアオの幼虫など昆虫も親しみをもって見られるようになりました。

オオウバユリのたくましさ、帰り道での、クルマユリが可憐に咲く姿を見て心とむ思いがしました。エゾアシサイが群れ咲いている山路を通り、一緒にいた方々との会話はずみ、楽しいひとときを過ごすことができました。又参加したいと思っています。

5月のカタクリ観察会以外、一般者の立ち入りを遠慮願っている場所での夏の観察会ということですので参加してみました。実際の所上記の事情でこの場所で夏の野草の開花などを観察するのは初めてのことです。

キツリフネ、ツリフネソウは開花が遅れているため花を見ることは出来ませんでした。ナンバンハコベ、ミヤマヤブタバコ、ミヤマニガウリ、ヤブハギほかの開花と、クリンソウ、オオハナウドほかの結実を見ることが出来たので満足しています。

又、多少の情報交換も出来た楽しい観察会でもあり、植物を同定することの難しさを知った一日でもありました。

名称の羅列だけに終わらず、適当な説明もありよかったです。

また機会をつくって参加したいと思いますのでよろしく！

滝 野 参 加 者 の 声

私はとにかく全部が楽しかったです。

最初は、初めまして仲良しゲームでした。すぐにはずかしかったけどなんとか2人はできました。さいしょは練習をしてからやったけど2人しかできなくて、本当は3人なのに2人しかできなくて、くやしかったです。

せせらぎウォッチングでは、すごく魚をとりたくてはしゃいでいたら、ズボンをぬらしてしまいました。でも小さい魚のハナカジカやコカゲロウそのほかいっぱいとれました。そしてせせらぎウォッチングで色々な魚のことがわかりました。すごい大きい魚をもっている人もいました。

フリータイムでは、友だちもできてうれしかったです。

夕食の時カレーを食べて私は「みんなで作ったカレーはおいしい」と思っていました。しょっきをあらう時は川をよごさないためにぬのでふいたりしてすごかったです。私は「一人一人がちゃんとすれば川はよごれないんだ」と思いました。

次に、星ぞらウォッチングでも色々な星のことがわかりました。ナイトウォークでは、木と木がぶつかった音や、はっぱとはっぱがぶつかった音も聞こえました。

そしてねむるじゅんぴをして、しょくどうに行

くと、いっぱいのおかしがあって子どもと大人にわかれて、大人はビールやおつまみ、子どもはおかしやジュースでした。いっぱいおかしを食べて、歯をみがいてねました。

次の日のさいしょの時には、さんぽにいきました。さいしょに見たのはきつねのうんちでした。どうやって犬のうんちと見わけなのか？と聞いてわかりました。木の実がいっぱいはいっているのでもわかるそうです。きつねのうんちには、エキノコックスという病気があるのでさわらないで下さいと言われて、ちょっとびっくりしました。次に見たのはとりでした。きれいな茶色の毛のとりでした。帰ってきて、そうじをして、ごはんを食べました。

そういえば昨日楽しかったキャンプファイヤーもやったんだ。キャンプファイヤーはすごくおもしろかったです。そうじのあと、森のなかでフィールドビンゴをしました。行っているとちゅうオタマジャクシがいました。そしてまたとちゅうでカエルの赤ちゃんがうじゃうじゃいてかわいかったです。カエルの赤ちゃんはぷにぷにしてかわいかったです。そして、カエルをにがしてあげました。

また、行っている時にとんぼがいて、1ぴきで自分のいけを守っていました。そして帰って来てあめをくれました。おべんとうとアンケートをこうかんして車にのって帰りました。

本当にいい思い出ができました。

2006年度 観 察 会('06年9月16日～'06年11月3日)

下見の日時は連絡先指導員に確認してください。

年 月 日	テ ー マ	観 察 地	集 合 場 所・時 刻	交 通 機 関	下 見	連 絡 先
2006年 9月16日(土)	「野幌森林公園(大沢口)」 観察会(親子・子供特集) 森に秋を探しに行こう	江別市 野幌森林公園 大沢口	野幌森林公園大沢口駐車場 10:00集合～12:00解散	JRバス新札幌駅発 循環バス83番, JR森林公園 駅→徒歩8分国道12号線野幌の村入口バス停→ 循環バス、「文教台南町下車」徒歩10分	9月9日 (土) 10:00～	横山 武彦 011-387-4960
2006年 9月17日(日)	もっともっと藻岩山 藻岩山散策 (旭山記念公園～慈恵会)	札幌市中央区～南 区 藻岩山	旭山記念公園駐車場 10:00集合～14:00 慈恵会駐車場で解散 昼食持参	地下鉄東西線 円山公園/バスターミナル発, JRバス「旭山記念公園」行き		山形 誠一 011-551-5481
2006年 10月1日(日)	「利根別自然休養林」観察 会 秋の野鳥と植物観察	岩見沢市 利根別自然休養林	利根別自然休養林駐車場 9:00集合～12:00解散 あれば双眼鏡、望遠鏡、ルーペ、図鑑	JR岩見沢駅前バスターミナル発 Aコース、 Bコース「教育大前」下車 徒歩15分		佐藤 幸典 0126-23-4415
2006年 10月7日(土)	「目名川」観察会 サケの遡上・いのちのド ラマ	蘭越町 目名川	名駒駐車場 10:30集合～12:00解散 長靴があれば便利	公共の交通機関はありません JR蘭越駅からタクシーで約2000円程度 バスが確保できました。詳細は同封案内。		大表 章二 0136-57-5610
2006年 10月8日(日)	「秋の錦大沼」観察会 キノコのはなし	苫小牧市 錦大沼総合公園	錦大沼総合公園駐車場 8:50 集合9:00～14:00解散 昼食持参 雨天原則決行 強風中止	自家用車のみ あれば双眼鏡・ルーペ・図鑑など持参	10月7日 (土) 9:00～	豊沢 勝弘 0144-74-0572
2006年 10月8日(日)	「秋の北大構内」観察会 エルムの秋	札幌市北区 北海道大学構内	北海道大学正門 10:00集合～12:00解散	JR札幌駅北口より徒歩5分		須田 節 011-752-7217
2006年 10月15日 (日)	「秋の円山公園」観察会 木の実と紅葉	札幌市中央区 円山公園	地下鉄東西線円山公園駅 1階バス待合所 10:00集合～12:00解散	地下鉄東西線 円山公園駅下車		山形 誠一 011-551-5481
2006年 10月21日 (土)	「医療大学薬草園」観察会 紅葉の丘を散策しよう	当別町 医療大学薬草園お よび背後の丘陵地	JR医療大学前 10:00集合～13:00解散 昼食持参	JR学園都市線札幌発「医療大学行き」終点下車		林 迪子 0133-74-0478
2006年 10月22日 (日)	「大谷地の森」観察会 秋を探そう	札幌市厚別区 大谷地の森公園	地下鉄東西線大谷地駅 1階バスターミナル 10:00集合～12:00解散	地下鉄東西線大谷地駅下車	10月15日 (日)	澤田 久美子 011-891-1962
2006年 10月29日 (日)	「モエレ沼公園」観察会 渡り前集結の鳥たち	札幌市東区 モエレ沼公園	モエレ沼公園 東駐車場 9:40集合～12:00解散 防寒の用意	地下鉄東豊線 環状通東駅 9:10発市営バス「札苗69番」 モエレ沼公園入口下車	10月22日 (日)	須田 節 011-752-7217
2006年 10月29日 (日)	「晩秋のウトナイ湖」 ハクチョウ(渡り鳥)の 観察と森のお散歩	苫小牧市 ウトナイ湖周辺	環境省ウトナイ湖保護センター前 9:30集合～12:00解散・必要に応じ て昼食持参	新千歳空港:15発道南バス 「苫小牧」行き乗車「ウトナイ湖」下車 無料駐車場有		谷口 勇五郎 0144-73-8912 宮本 健市 0123-28-4720
2006年 11月3日(金)	「長橋なえぼ公園」観察会 生き物たちの冬じたく	小樽市 長橋なえぼ公園	なえぼ公園「森の自然館」 9:00集合～12:00解散	小樽駅前 国際ホテル向かい 発 中央バスオタモ イ線、苗圃通り下車、或いは塩谷線、長橋4丁 目下車		後藤 言行 0134-29-3338

2006年度 研修会他

研修会の案内と申込用紙は、会報80号に同封します。

年 月 日	テ ー マ	観 察 地	集 合 場 所・日 程	交 通 機 関	講 師	連 絡 先
地方研修会 10月1日(日)	キノコ(菌類)とい う生物を もっとよく知ろう	苫小牧市 錦大沼総合公園 アルテン 錦大沼付近	錦大沼総合公園(トリートキョウ 場 アルテン2F会議室 集合 9:30～16:00 解散 10:00～12:00 説明、スライド、標本、写真 13:00～16:00 フィールドでの観察・研修	公共の交通機関はありません JR新千歳駅より 5km 苫小牧駅前大学より約3km (各自、タクシー利用が自家用車 の乗り合わせになります)	苫小牧市 豊澤 勝弘さん	豊澤 勝弘 0144-74-0572
自然観察指導員 講習会 10月27日(金)～ 10月29日(日)	第389回 自然観察指導員 講習会・北海道	恵庭市 青少年研修センター 恵庭公園	詳細については (社)北海道自然保護協会 講習会担当 〒060-0003 札幌市中央区北3条西11丁目 加森ビル 6階 Tel/Fax 011-251-5465	お知り合いの方に受講を勧め ください 北海道自然観察協議会のホームペ ージに案内が載っています。		
フォローアップ研 修会 11月19日(日)	始めの一歩をご 一緒に!	恵庭市青少年研修セ ンター 恵庭公園	恵庭市青少年研修センター 9:00集合～16:00解散	JR恵庭駅西口より徒歩25分		中川 晃 0123-28-8927

【事務局だより】

北海道自然観察協議会のホームページが立ち上がっております。

<http://noc-hokkaido.org/>、<http://www.noc-hokkaido.org/>

どちらからもアクセスできます。「北海道自然観察協議会」または「観察協議会」で検索するとほとんどの検索エンジンでヒットします。

会の紹介・観察会予定・観察会報告・お知らせ・会報・リンク集など、当会会員へのお知らせ（研修会等）を含んだ多彩な内容になっております。

各地域での活躍の様子や写真、観察会報告の簡単な文と写真を、下記宛てにお送りくださいますようお願いいたします。

また、観察会の「案内チラシ」を作っている方も多いと思います。それを送っていただくと観察会の予定から表示して観察会のPRになります。

(送り先) 編集部 竹林 正昭 E-mail: hzx01204@nifty.com Tel/Fax: 0157-56-3357

【理事会だより】 理事会議事録から抜粋

第2回理事会 2006/8/4

- ・木村マサ子理事は本人の申し出により8月4日で退会となりました。
- ・2006・2007年度研修部部長は大表章二さん（欄越町）に決まりました。
- ・苫小牧地方研修会 10/1 10:00～16:00 詳細は同封のチラシをご覧ください。
- ・当会ホームページのグループ管理担当は、会長・事務局長・観察部長・遠山さん・竹林さんです。
- ・年会費を郵便局の自動引き落としに向けて取り組んでいます。詳細は会計からのお知らせをお読みください。ご協力をお願いいたします。
- ・自然観察指導員講習会が10/27（金）～10/29（日）恵庭市恵庭青少年センターで開催されます。受講を希望されるように宣伝をお願いいたします。 詳細は北海道自然保護協会へ。
- ・救急救命講習会は'7/1/28 かでる 2・7 9:00～16:00。詳細はチラシにて81号会報に同封します。
- ・継続審議—会則改訂について
現行に合わなくっている条項について検討中です。
最終的には総会で会員の皆様に検討していただきます。
- ・20周年記念観察会カードは現在も無料配布中です。ご希望の方は事務局へ 連絡をお願いいたします。
(配布選考基準があります。)

会費や寄付は	----->	郵便振替口座	02710-1-8768	北海道自然観察協議会
	----->	会 計	畑中 嘉輔	〒062-0033 札幌市豊平区西岡3条13丁目12-13
			/Fax 011-581-5439	
観察会保険料は	----->	郵便振替口座	2770-9-34461	北海道自然観察協議会観察保険料
	----->	観察会担当会計	引地 輝代子	〒002-8022 札幌市北区篠路2条5丁目8-25
			/Fax 011-773-2170	
観察会報告書・資料は	----->	観 察 部	山形 誠一	〒064-0946 札幌市中央区双子山1丁目12-14
				011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp
研修会関係は	----->	研 修 部	大表 章二	〒048-1301 磯谷郡蘭越町蘭越町852-23
				0136-57-5610
退会、住所変更の連絡他は	----->	事 務 局	須田 節	〒007-0846 札幌市東区北40条東9丁目1-13
事故発生等緊急時は				/Fax 011-752-7217 E-mail zan00711@nifty.com
			北海道保険保証 011-222-0877 (日・祝祭日は休み)	
投稿や原稿は	----->	編 集 部	竹林 正昭	〒099-2103 北見市端野町3区378-3
				/Fax 0157-56-3357 E-mail hzx01204@nifty.com

表紙スケッチ 八木健三



自然観察:2006年 9月 15日 / 第80号 年4回発行
(会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれています)
発 行 北海道自然観察協議会
編 集 北海道自然観察協議会編集部